

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調査研究名	油症の健康影響に関する疫学的研究
研究者名（所属） 印：研究代表者	片岡恭一郎、小野塚大介、高尾佳子、梶原淳睦、中川礼子、吉村健清（保健環境研究所）、古江増隆（九州大学医学部）
本庁関係部・課	保健医療介護部保健衛生課
調査研究期間	平成19年度 - 21年度（3年間）
調査研究種目	1. 行政研究 課題研究 共同研究（共同機関名：九州大学医学部皮膚科（全国油症治療研究班）） 受託研究（委託機関名： ） 2. 基礎研究 応用研究 開発研究 3. 重点研究 推奨研究 ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第3次実施計画	柱：いきいき暮らせる安全・安心な社会づくり 大項目：健やかに暮らせる社会づくり 小項目：食の安全・安心の確保
福岡県環境総合基本計画 (P20,21) 環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	油症 疫学 データベース ダイオキシソ 死亡率
研究の概要	
<p>1) 調査研究の目的及び必要性</p> <p>油症患者は福岡県、長崎県に多く、今でも慢性的症状に苦しんでおり、治療及び健康管理に必要な疫学的知見を提供し、患者の治療及び健康管理に資する必要がある。本研究では油症患者の中で出現する様々な臨床所見、生化学検査、PCB、PCQ、ダイオキシソ類等のデータを経年的に保存管理し、それらの頻度と分布を明らかにすること、また、患者の生死を追跡し、一般集団との死亡率の違いを明らかにすることにより、油症患者に対する有効な治療、健康管理、その他健康関連対策に必要な情報を提供することを目的にしている。</p>	
<p>2) 調査研究の概要</p> <p>本研究は大きく二つに分けられる。一つは毎年全国11の追跡班で実施される油症一斉検診の検診データを用いた疫学的研究であり、もう一つは認定患者の追跡調査である。検診データを用いた疫学的研究では、検診受診者データベースの機能充実を図りながら、毎年、内科、皮膚科、眼科、歯科及び検査データの全国集計結果の報告、ダイオキシソ類化合物とヒト健康影響解析を行う。認定患者追跡調査では、認定患者の生存状況および死因を調査し、死亡リスクの評価を行う。</p>	
<p>3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください）</p> <p>平成20年度検診の検診受診者数は606人（認定：431人、未認定：175人）であり、平成20年度までのデータベース登録者数は1,442人となった。油症検診受診者のデータベースの機能充実については、平成20年度の検診から骨密度及びアレルギー検査が追加されたためそのデータ収集に対応した。また、管理者用として検体シール印刷機能、データエクスポート機能及び家系図作成機能をデータベースに搭載した。検診受診者データベースのデータを用いて、1986年～2008年の認定者（延べ6537人）の臨床所見の推移をまとめた。また、認定患者追跡調査では、全認定患者1924人のうち1918人の生死を確認し、全国の死因別死亡率を基準値として、認定患者のSMR（標準化死亡比）及び95%信頼区間を求めた。</p>	
<p>4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献</p> <p>食の安全・安心の観点から県民へPCB/ダイオキシソ類化学物質のヒトへの影響等の知見を提供できるので、県民のPCB/ダイオキシソ類化学物質に対する正しい理解と健康予防対策に貢献可能である。</p>	
<p>5) 調査研究結果の独創性、新規性</p> <p>本研究は油症患者の健康に負荷を与えているリスク要因を疫学的手法により明らかにしようとするもので、対象がPCB/ダイオキシソ類化学物質の複合中毒者であり、世界的に希少な事例を研究対象としている。</p>	
<p>6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）</p> <p>本研究により油症患者に対する治療指針の見直し、健康管理上の情報提供が可能であり、油症患者の病状回復の向上に活用する。</p>	